

とんち小僧の知恵くらべのはなし

とんち小僧の知恵くらべのはなし ①

むかしあるお寺にえらい坊さんが小僧と修業をしていたんだとお。この小僧はたいへんとんちがあつて、よく坊さんと知恵くらべをして負けなかつたんだとお。あるとき坊さんはだん家の法要に招かれて行つて帰りみち一つ小僧を困らしてやろうと思つて、通りがかりの橋を渡ろうとしたとき「小僧、ここでお前と知恵くらべをしようか。」と、そういつたんだとお。「おしようさま、何でござりますか。」と小僧。「そうだ、わしが一つ制札をここにたてる。『このはしを渡るべからず』となあ。そうしたらお前ここを渡れるか。どうじゃ。」そういつて、からから笑つたんだとお。小僧はしばらく思索していたがうなづくと「おしようさま、わたつてみせますべい。」とつかつか歩きだすと、橋の真ん中を渡つたんだとお。坊さんは「小僧、参つた。今日はおしよりの負けじゃ。」と小僧のとんちに舌をまいたんだとお。橋と端のことばのあやのかけひきだつたんだとお。

とんち小僧の知恵くらべのはなし ②

むかしむかし、このえらい坊さんと小僧がまた別のだん家の法要によばれて行つたんだとお。「小僧、知恵くらべをしようかなあ」「おしよさま、何でもやりましょう。」そうした問答のあと、無事法要もすんで、ごちそうが出、お膳には精進料理ではあつたが、だん家の心づくしのうまいものが出たんだとお。さて食べようとするとき、坊さんは小僧にいった。「小僧、お椀のふたとらずに食べてみよ。」これにはさすがのとんち小